

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所びーす		
○保護者評価実施期間	2024年 11月15日		～ 2024年 11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2024年 11月25日		～ 2024年 11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの特性だけではなく、環境や性格なども考慮してひとりひとりに合わせて療育をしている。専門的支援も取り入れている。	幼稚園等に訪問して関係連携会議をしたり、他事業所と事業所連携会議をしたり情報を共有して個別支援計画の内容に取り入れている。	幼稚園・保育園等の職員と関係を深めていき、子どもたちが安心して生活できるように移行支援をしていく。
2	悩み相談や気になることがあればいつでも対応するので、気軽にチャットや電話連絡してもらおうように伝えている。その為、保護者からの信頼も得ている。	悩み事があれば、家族支援や子育てサポート、移行支援の利用ができるようにしている。自宅での様子を伺って助言をすることがよくある。	研修などを通して、全職員が専門的な知識を深めて保護者の悩みに対して、更なる確かな助言ができるようにしていく。
3	職員の関係が良好でコミュニケーションが取れているので、意見交換がしやすい。子どもたちの成長や気持ちの変化など、小さなことのも気づいたら報告し合っている。	毎日子どもの様子を報告し合ったり、療育について振り返って改善できるようにしたりできるように、スタッフミーティングを行っている。	パートの職員がミーティングに時間の関係で参加できない為、後日伝えるようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の小学校との連携が希薄の為、情報共有する時間が少ないので増やしていく必要がある。	保護者に小学校と連携がとれることを詳しく伝えられていなかった為、要望がなかった。小学校と連携できることも伝えて、連携を図っていく。	年長児の保護者に、就学に向けて不安なことがないかを確認する。保護者も子どもたちも安心して、小学校に行けるように支援する。
2	幼稚園・保育園後の利用の子どもたちの療育時間が少ない為、来る曜日を増やしてもらっている。	集団療育を行っている為、幼稚園や保育園などに子どもたちが馴染めるようになったので、子どもたちにとっては良い時間配分であると考えられる。	子どもたちの成長の様子を見て、ひとりひとりに合った利用日数や療育内容、時間配分等を考えてサービスの提供を行う。
3	使える部屋が一つなので、子どもたちが一人になって落ち着ける空間を作るのが難しい。パーテーションを利用して落ち着ける空間を作っている。	パーテーションを利用したり、職員とフロアの外で一緒に落ち着いたりすることで補えてはいるが、もう一つ落ち着ける部屋があれば尚良いと考えられる。	常に子どもたちの環境面は落ち着ける空間になっているかを考えて療育する。